



Japanese History

日本史学専修

1854年、ペリー率いる黒船の威力に屈して日米和親条約を結び鎖国は終わった——この一見自明な事実を証明するには、数多くの史料を発掘し、さまざまな手続きを経る必要があります。また、日米和親条約の締結を広く東アジアの中に位置づけることで、今までの理解とは違った側面が見えてくるかも知れません。

皆さんは、これまで専ら他人が書いたものによって歴史を学んできたはずです。大学では、自ら課題を設定し史料を集め、自らの方法で独自の結論を得ることが求められます。本専修では、このような基礎的能力を身につけるため、各時代の演習・講義を用意しています。皆さんはそれらを学んだ上で、最終的には卒論という形で自己の見解を披露することになります。

研究室では、院生・学生が絶えず議論をたたかわせています。春と秋には恒例の研究室旅行があります。さまざまな場を通して大いに自分を磨いてください。

教員

ばんせ・あけみ
伴瀬明美 教授

いち・ひろき
市 大樹 教授

のむら・げん
野村 玄 教授

こけつ・さとこ
古結 諒子 准教授

きただまり・けんたろう
北泊 謙太郎 助教

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/nihonshi/> (研究室ホームページ)

何を学んでいるの？

古代史と現代社会

文献史学・考古学・歴史地理学の最新の研究成果を紹介しながら、アジア世界の動向を見据えつつ、日本古代国家の成立過程、日本古代社会の特質を論じます。古代史が現代社会と無縁ではないことがわかるでしょう。

日本史上の根本問題

——日本とは何か、天皇とは何か

この授業では、天皇号の成立に関する学説を検討し、憲法に規定される天皇という称号の意味を考えます。歴史的に連続するのか、または断絶しているのか、双方の見方に配慮して多角的に講じます。

どんな授業があるの？

【講義題目】

飛鳥時代の諸問題
史料から読み解く中世前期公家社会
日本近世政治史講義
近代日本と条約改正

【演習題目】

日本古代史論文演習／日本古代史料演習（『令義解』・『類聚三代格』講読）
中世史料講読演習（『玉葉』・『東寺百合文書』）／日本中世古文書演習
日本近世史くずし字読解演習
／近世古文書の解読と整理
日本近代史料演習（『伊藤博文関係文書』・『外国新聞に見る日本』）

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

吉岡 改「永禄の変前後における三好氏の権力構造」

永禄の変の要因については諸説紛々の一方で、事件を主導したとされる三好氏内部、とくに当主義継周囲の権力構造が十分に解明されていないことに着目し、事件前後の三好氏発給文書を収集して分析することによって、「三好三人衆」を含む義継周囲の権力構造の具体相とその変化を実証的に明らかにした。（選：伴瀬明美 教授）

【卒業論文題目】

八世紀における山林修行について
中世前期における寺院大衆の武力発向と政治権力
近世前期における豊後国臼杵藩のキリシタン統制と五人組
大阪府における旧制中学校生徒の陸軍士官学校進学

日本史に興味を持ったきっかけは？

Yさん 小学生の時に『学習マンガ 日本の歴史』を読んで、興味を持ちました。また両親が城巡りが好きで、各地の城を巡っていく中で、戦国武将に興味を持ちました。

Sさん 小学生の時に図書館の伝記を一通り読み、過去のことを調べるのに興味を持ちました。また太平洋戦争を描いたドラマを観て、近代史に興味を持ちました。

Oさん もともと古典文学が好きで、小学校高学年の時に『平家物語』を読み、そこから歴史マンガなどにも触れるようになり、日本史に興味を持つようになりました。

研究室を選んだきっかけは？

Sさん 日本の歴史・文化に興味があり、日本文学などにも関心がありましたが、1年生の時に日本史学研究室の教授陣の授業を受け、特に面白かったためです。

Yさん 自分は元々戦国時代を研究してみたいと思っており、高校の時に成績が良かったこともあり、趣味の面でも合っていたため、あまり迷いませんでした。

Oさん 当初哲学・思想文化学と日本文学、英米文学と迷っておりました。1年生の時に各専修の講義を受けた中で、日本史学の授業が特に将来自分が「研究したい」とはっきり思えたため、日本史学研究室を選びました。

研究室に入る前・入った後の印象は？

Oさん 最初「研究室」という字体の印象や、専修決定での訪問の印象から、敷居が高そうな場所だと思っていました。ただ演習や勉強会で入室することを重ねていくうちに、段々と落ち着ける場所になってきました。

Yさん 研究室に入る前は、正直入りづらいと思っていました…しかし、戦国史の勉強会などに参加していくなかで、先輩たちと交流することができ、次第に居心地が良い環境だと思えるようになりました。

Sさん 入った直後は、研究室の中に学部生より院生の方が多く、自分たちからコミュニケーションをとってもよいのかたじろぐ場面もありました。現在は、むしろ院生の先輩方が後輩と積極的に交流をとってくれることが多いと分かり、研究室にいた方が勉強がはかどる環境だと感じるようになりました。

研究室に入ろうと考えている後輩に一言

Yさん 結構やることが多く、大変な研究室ではあると思います。けれども自分の好きな学問で、自分の意見を論拠を持って発言でき、しかもたくさんの人と意見を交わせる環境です。勉強会でも、院生の先輩などからレジュメの作り方など、研究の進め方に関してサポートできる環境が整っていると思います。

Oさん 「日本史が好き」と思っている人にとっては、簡単ではないです

が、楽しい空間であり、入って後悔しない研究室であると思います。特に、好きなものを追求することを後押しできる環境ではないかと感じております。

Sさん 1年生の時点で、好きな時代やテーマがあれば、研究室訪問の時に、関心ある分野をしっかりと学べるのか、関連する文献はあるのか、先生や先輩に尋ねてみると良いと思います。

[インタビュー協力]

Yさん(院生)、Sさん(4年生)

Oさん(3年生)



滋賀屋八兵衛コレクション
(陸奥国千鳥のたま河)



新入生歓迎旅行（五色塚古墳で記念撮影）



近世古文書演習風景



研究室例会（平雅行先生をお招きして）